

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	葵メディカルアカデミー
設置者名	学校法人 葵学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法科	夜・通信	240時間	240時間	
	歯科衛生科	夜・通信	240時間	240時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	葵メディカルアカデミー
設置者名	学校法人 葵学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	医療施設 役員	令和2年4月1日～ 令和6年3月31日	組織運営体制への チェック機能
常勤	医療施設 医師	令和2年4月1日～ 令和6年3月31日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	葵メディカルアカデミー
設置者名	学校法人 葵学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則または歯科衛生士養成校指定規則をシラバス作成の基盤としており、さらに、国家試験出題基準や臨床実習で必要とされる知識によって、前年度の12月に方向性が決定される。</p> <p>シラバスには、開講学年、単位数・時間数、授業概要、教科書、参考書、教育目標・行動目標、授業予定、履修上の注意、成績評価の方法等を記載し、教育目標と授業予定と成績評価の一貫性を意識して作成する。</p> <p>公表開始2週間前に教務会議において、各担当教員が記載したシラバスを確認する。</p> <p>シラバスの作成時期は、授業開始前年度の2月におこない、入学直後、授業開始前の3月または4月に公表する。授業前に、シラバス上で授業について詳細な説明を加えることで、カリキュラムにおける当該授業の位置づけや、授業全体の学習の流れを学生に示す。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法は、あらかじめシラバスに記載されており、筆記試験、実技試験、学習状況、欠席状況等があり、それらを総合して評価する場合は、SA, A, B, C, Dの5段階評価とする。</p> <p>成績評価の基準は、あらかじめ学則細則で定められており、下記のとおり100点満点(素点)で行い、6割以上(C以上)を合格基準として、学業成績証明書には「SA」「A」「B」「C」「D」が記載される。</p> <p>100点～90点・・・SA、89点～80点・・・A、79点～70点・・・B、69点～60点・・・C、60点未満・未受験・・・D(不合格)、</p> <p>各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定された各科目の筆記試験、実技試験、学習状況等により厳格かつ適正に成績評価を実施し、その成績評価に基づいて、単位授与を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>履修科目の成績評価をポイント(SA[評価：秀、評点100点～90点]は4.0、A[評価：優、評点89点～80点]は3.0、B[評価：良、評点79点～70点]は2.0、C[評価：可、評点69点～60点]は1.0、D[評価：不可、評点59点以下]は0)化し、そのポイントに各科目の単位数を乗じ、その合計を履修科目の総単位数で割ってGPAを算出している。</p> <p>GPAの算出式は下記。</p> $\frac{4.0 \times \text{秀及び合格の習得単位数} + 3.0 \times \text{優の習得単位数} + 2.0 \times \text{良の習得単位数} + 1.0 \times \text{可の習得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」の単位数を含む)}}$ <p>上記のあらかじめ設定した算出方法により、GPAを算出しており、成績の分布状況の把握をはじめ、成績評価を適切に実施している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の教育理念に掲げる「人々の生活の質の向上に貢献する医療従事者」となるために、人間・生命の尊厳を理解し、患者等と対等に向き合うことができ、患者等の生活と人生の質の向上に配慮できる能力を身につけ、卒業要件を満たした者に卒業を認定する。</p> <p><卒業の要件、卒業判定の手順></p> <p>所定の期間在学し学則第10条（1、本校の教育課程及び授業時間数等は、別表1、別表2のとおりとする。2、卒業までに履修させる授業時間数は、理学療法科にあつては3120時間以上、歯科衛生科にあつては、2835時間以上とする）の所定の単位を修得した者に、判定会議の審議を経て学校長が卒業を認める。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	葵メディカルアカデミー
設置者名	学校法人 葵学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	名称：「葵メディカルアカデミー情報公開資料」 入手方法：校内に掲示及び図書室に配架及び希望者へ配布
収支計算書又は 損益計算書	https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html
財産目録	名称：「葵メディカルアカデミー情報公開資料」 入手方法：校内に掲示及び図書室に配架及び希望者へ配布
事業報告書	名称：「葵メディカルアカデミー情報公開資料」 入手方法：校内に掲示及び図書室に配架及び希望者へ配布
監事による監査 報告（書）	名称：「葵メディカルアカデミー情報公開資料」 入手方法：校内に掲示及び図書室に配架及び希望者へ配布

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門	理学療法科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3120 単位時間	600 単位時間	1620 単位時間	900 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3120 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		111人	0人	6人	17人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>講義、実習、演習などの授業方法で、1年次は解剖学や生理学、運動学などを通して、人の身体の正常な働きを学習。形態測定や関節の動きについての検査方法も学ぶ。2年次は、骨折や脳卒中、心臓・肺などの各領域における理学療法を学習。また、6週間の臨床実習を2回実施。症例に応じた理学療法評価を遂行し、その一連のプロセスのもと自己研鑽する。</p> <p>3年次は病院・施設等で6週の臨床実習を実施。症例の評価、測定、治療プログラム作成、治療、経過観察を一貫して実施する。</p>

成績評価の基準・方法
(概要) 筆記試験、実技試験、学習状況、欠席状況を総合して評価する場合は、SA, A, B, C, Dの5段階評価。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業要件：本校に所定の期間在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 進級要件：必要な科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。
学修支援等
(概要) 1年次全員に対して、入学時及び夏休み前に個別面談を実施。面談の結果を踏まえて、個別に指導をおこなっている。2・3年次においては、個々の学生の状況(成績・出欠等)によって個別に指導をおこなっている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	34人 (89.5%)	4人 (10.5%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、福祉施設関係			
(就職指導内容) 学生の学業成績や要望を踏まえ、適切な指導をおこなっている。求人への申し込みから内定、手続きに至るまで、幅広くサポートしている。また定期的に就職説明会を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士国家資格受験資格取得 (令和4年度卒業生 受験者35名、合格者34名 合格率97.1%) また、希望者は、普通救命講習、福祉住環境コーディネーター検定取得可能			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
118人	5人	4.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・副担任制を設け、学生全員と個別面談をおこなっている。成績や健康に問題のある学生に対しては、学習方法や生活習慣の改善等の特別指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門	歯科衛生科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2835 単位時間	780 単位時間	210 単位時間	1845 単 位時間	0 単位 時間	0 単位 時間
			2835 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		116人	0人	8人	11人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>講義、実習、演習などの授業方法で、1年次は解剖学や生理学、口腔機能解剖学などを通して、身体や口腔の構造と機能を学び、病気やそれからの回復、社会との関わりなども学ぶ。また、歯科予防処置等の業務に関する、しっかりした手技の訓練、生体に対する配慮ができるように知識および技術を身につける。</p> <p>2年次は、様々なライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎的知識、技術及び態度を身につける。また、臨床実習及び臨地実習を実施する。</p> <p>3年次は臨床実習等を通し、歯科診療所における歯科衛生士の役割を理解し、円滑に診療補助並びに直接対面行為をする事ができる能力を身につける。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>筆記試験、実技試験、学習状況、欠席状況を総合して評価する場合は、SA, A, B, C, Dの5段階評価。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業要件：本校に所定の期間在籍し、全科目を履修し認定を受けること。</p> <p>進級要件：必要な科目を履修し認定を受けること。</p> <p>履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時すぐに新生生に対し個別面談を実施。また、各学年成績不振者に対して、定期テスト前と終了後、個別面談を実施。また、在校生全員に対し、年度末にも個別面談を実施。面談の結果を踏まえて、担任・副担任が個別に指導をおこなっている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	0人 (0%)	25人 (89.3%)	3人 (10.7%)

(主な就職、業界等) 病院、診療所、福祉関係施設他
(就職指導内容) 学生の学業成績や要望を踏まえ、適切な指導をおこなっている。求人への申し込みから内定、手続きに至るまで、幅広くサポートしている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 歯科衛生士国家資格受験資格取得 (令和4年度卒業生 受験者27名、合格者25名 合格率92.6%)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
104人	3人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由、経済的事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・副担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、カウンセリングをおこなっている。成績や健康に問題のある学生に対しては、学習方法や生活習慣の改善等の特別指導を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
理学療法科	500,000円	800,000円	400,000円	実習費
歯科衛生科	200,000円	400,000円	250,000円	実習費
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校関係者として、卒業生、企業等から各1名以上の委員が参画した学校関係者評価委員会を構成して評価を実施する。「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、主な評価項目として(1)学校の概要、目標及び計画(2)各学科等の教育(3)教職員(4)キャリア教育・実践的職業教育(5)様々な教育活動・教育環境(6)学生の生活支援(7)学生納付金・修学支援(8)学校の財務等がある。 学校が行った自己評価の客観性・透明性を高めていくとともに、それぞれの立場、視点から意見を出し合い、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善などにかす。改善方策は、学校長を責任者として、翌年度内に実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
埼玉医科大学保健医療学部 理学療法学科講師	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
竹内病院リハビリテーション科 理学療法士	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
深谷中央病院	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
大里郡市歯科医師会	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
埼玉県歯科衛生士会	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html		
第三者による学校評価(任意記載事項) 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aoi.ac.jp/medical/news/1858/index.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H111321800029
学校名	葵メディカルアカデミー
設置者名	学校法人葵学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		27人	24人	29人
内 訳	第Ⅰ区分	-	11人	
	第Ⅱ区分	12人	12人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				29人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。